

平成24年度 音楽研究委員会報告

(兼 全日本音楽教育研究会全国大会長野大会 小学校部会 高甫小公開授業)

1 委員会研究テーマ

大会主題 高めよう！ 音楽の確かな力
味わおう！ 音楽の美しさ
分かち合おう！ 音楽の歓び

小学校部会研究主題

音楽のよさを感じ取り 伝え合い 心がつながる授業づくり

2 研究内容

(1) 公開授業研究

期日 平成24年11月15日(木)
授業校・学級 高甫小学校 5学年
授業者 駒村京子教諭
助言者 中山裕一郎(信州大学教授)
題材名 「互いの旋律の重なり合いを感じて歌おう」
授業場面 互いの声と旋律を意識し、言葉と音の絡み合いの面白さを感じ取り、
友達と表現を工夫する授業

(2) 研究内容

高甫小学校では「カノン」を教材とした学習を継続的に展開してきた。はじめは他パートの旋律の動きや自分たちの声との重なりを感じ取りながら歌うことはなかなか大変であったが、平易な曲から経験を積み重ねることで様々な構成の曲にも慣れてきた。互いに聴きあうことで、旋律のかけ合いの面白さを感じ取って合唱したり、美しい和音の響きを心地よく感じて合唱したりする楽しさがわかってきた。そこで、他のパートとの音の重なりを感じ取りながら主体的にアンサンブルを楽しむ子どもたちの姿を願い、研究の視点を次の3点として授業を行った。

①音楽を形づくっている要素の働きを明らかにした教材化と題材展開

音楽を形づくっている要素のうち「音の重なり」「問いと答え」「音楽の縦と横の関係」に注目させ、それらの働きが生み出すよさや面白さを自ら感じ取り、「友」を感じて音楽表現を追究する姿をめざす。

②音楽のよさや美しさに迫る学び合い

感じたことや考えたことを、音楽や言葉、指揮や体の動きなどで伝え合うグループ学習での学び。グループで考えた表現の工夫を歌い合い、よりよい表現をめざす全体追究での学び。

③子どもの学びを支える評価と指導

子どもの意識をつかみ、学習を整理する学習カードの活用。

3 研究の成果

(1) 研究授業から明らかになったこと

①歌唱曲「空のことば」を主教材として、「ふるさと・オン・マイ・マインド」(器楽演奏)と「ブランデンブルグ協奏曲第2番」(鑑賞)を題材展開に組み入れ、「音の重なり」「問いと答え」「音楽の縦と横の関係」に着目させた学習を展開した。子どもたちは、互いの旋律の関わり合うよさや美しさを感じ取り、それを生かしながら、対話を意識した表現の工夫をして

歌うことができた。

②グループ追究では、互いに目を合わせ、息づかいを感じながら歌い、声部のかかわりやバランス、強弱、発音などの工夫を通して、友と音楽で対話する良さや楽しさを学ぶことができた。また、全体追究では、グループでの工夫をもとに、全員で歌ったり、聴いたりして、表現を共有することができた。その中で、表現者としての思いと鑑賞者としての思いの違いが明らかになるといった新たな発見もあった。

③鑑賞では、目で合図しながら対話しているような演奏の映像を教材として用いた。そこから子どもたちは「目で合図すること」の大切さを学び、自分たちの歌唱表現に生かしていた。また、図式化した楽譜を用いて旋律の重なりや楽曲の構造がわかるようにした。歌唱では、アンサンブルを楽しむために必要な工夫を記入できるカードや、旋律のかけ合いが視覚的にわかる拡大楽譜を用い、互いの旋律の働きを理解してバランスを工夫できるようにした。これらの工夫により、他パートとの音の重なりを意識しながら主体的にアンサンブルをつくっていくことができた。

(2) 授業研究会から明らかになったこと

- ・互いのパートを聴きあって歌うことにより、やわらかい歌声になっていた。子どもたちの歌声が美しく、楽曲にもよく合っていてよかった。
- ・題材展開の中で学んできたことが、目で合図しあって歌っている姿にあらわれていた。
- ・グループ追究では、表現を工夫して歌うことに主体的に取り組む姿が見られた。「やさしく歌いたい」という共通の思いをもとに、声の強弱、パートのバランス、語尾の丁寧な歌い方などを工夫して、いろいろな表現を考え、歌い試していた。グループによっては、どのように歌ったらよいか迷っている場面や、自分たちの表現がどうなのか客観的に判断できない場面もあったが、本時のねらいである「対話」を意識して、互いのパートを聴きあうことや、やさしい気持ちで歌うことから離れることなく、表現を工夫することができた。
- ・グループ追究してきたことを、全体追究の場面でどのようにまとめていくのがよいか、いろいろな方法があるだろう。授業のねらいにそって、ふさわしいまとめ方を工夫していく。
- ・子どもの感想「みんなが会話しているようになりました。」「ソプラノとアルトで聴き合いながら歌ったら、笑顔で歌えたし、楽しく歌えた。」のように、対話して歌うよさを味わうことができていた。

4 来年度への課題

(1) 研究の成果から来年度への研究へつなげる課題

- ・カノンを歌うことを積み重ねてきた子どもたちは、ハーモニーがとれるようになってきた。新しい合唱曲を覚える場面でも、パートの音程の横の動きだけを追うのではなく、他パートとの重なりを感じて音がとれるようになってきている。このような学習の積み重ねにより、音楽の確かな力を高められることがわかった。今後の音楽学習に生かしたい。
- ・互いを意識し合い、友と共につくる音楽の楽しさを味わえる授業

(2) 研究推進や運営について

- ・今年度は全日音研のため、特例として、推進委員が全日音研の高甫小学校研究部員を兼務した。(推進委員全員が小学校所属。)来年度は通常にもどし、小中学校両方から推進委員を出すものとする。
- ・小学校での研究が2年続いたので、来年度は中学校でお願いしたい。